

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都府】

学校名【京都府立乙訓高等学校】

1 実践テーマ	【I・V】
2 実施対象者	スポーツ健康科学科 122名 内訳：1年生（40名）、2年生（42名）、3年生（40名） スポーツ健康科学科卒業生（12名）および保護者（2名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（スポーツ健康科学科開設10周年記念式典） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	北京オリンピック男子競泳 4×100mメドレーリレー銅メダリストの宮下純一氏から競技を通して学んだ（身につけた）ことによる経験談を聞くことによって、人間力を高めるための人材育成を目指す。
5 取組内容	北京オリンピック男子競泳 4×100mメドレーリレー銅メダリストの宮下純一氏による「出会いに感謝」と題した講演会。 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>
6 主な成果	目標を達成するための考え方や目標設定を行う能力を身に付けることができた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	競技だけでなく、競技を通した人間形成、競技引退後のセカンドキャリアを含めて生徒に将来の目標を設定することに重点を置いた。
8主な課題等	自身のパフォーマンスを高め成長するための方法や、競技を通した人間形成について、実体験とともに生徒たちに話をしていただき、生徒は参考になることが多く大変感銘を受けた。 今後も将来を見据えた目標設定を行い、具現化するヒントになるようなことやスポーツを通した将来像に結びつく活動を経験させていきたい。
9来年度以降の実施予定	近年は、オリンピックを選手として経験された方や公益財団法人日本オリンピック委員会でオリンピックを運営側として携わった方の講演をとおして生徒の人間力の向上を目指した。 今後は、指導者の立場からのお話を聞くことによって、選手や運営側とは違ったスポーツへの関わり方を学習させたい。

令和2年2月2日(日) 京都新聞朝刊

長岡京市友岡1丁目の乙訓高は1日、今春で開設10周年を迎えるスポーツ健康科学科の記念式典を開催した。在校生や卒業生など約150人が集い、10年の歩みを振り返り節目を祝った。

乙訓高スポーツ健康科学科



スポーツ健康科学科での高校生活を振り返り、助言を送る卒業生ら(長岡京市友岡1丁目・乙訓高)

誕生10年節目祝う

記念式典に150人 卒業生、思い出語る

同科は2010年春に府内初の学科として開設。大学や企業と連携した研究・事業などを通して、スポーツに関する多彩な知識を学んでいる。

式典は、1年生らによる創作ダンスで開幕。越智雅之校長は、本年度の全国高校総体に府内で2番目に多い6競技49人が出場したことをたたえ、「先輩たちが残したエネルギーと実績を維持して、次の10年に向かって果敢に挑戦していき」と熱を込めた。

卒業生4人による座談会では、トライアスロンの世界大会などで活躍する奈良教育大院生の加後美咲さん(24)が、「結果が出ない時に先生に相談して、慰められるかと思ったら『覚悟が足らん』と一喝され、自分を奮い立たせた」と話し、会場を沸かせた。

2008年北京五輪競泳男子銅メダリストの宮下純一さんによる記念講演もあった。

(梶原蓮実)